

がもん!

AKINDO



加茂でがんばる素敵な商人 (AKINDO) をご紹介します!



今回の AKINDO (株)高橋はかりや 社長 高橋 宏明さん

趣味：ゴルフ、旅行 (おすすめは 家族旅行で行った京都です!)

さっそくですが...  
どんな会社なんですか?

私共の会社は各種計量器・測量機器・省力化産業機器の販売・修理をしています。

昭和24年1月に創業者高橋甚四郎が度量衡器の販売許可を得て、加茂市の現在地にて創業いたしました。昭和42年に個人経営を改組し、「株式会社高橋はかりや」として現在に至っています。

私共の扱う計量の歴史は古く、通貨制度ができるよりも前の「物々交換」の時代から計量概念があったとされています。エジプトの壁画には天秤が描かれていますし、ギリシャ神話の女神テミスが天秤を持って「計量」が見ても、古代から人々の生活基

盤を守り、文化の発達を支えてきたことがうかがえます。

現代の生活にも計量は密接な関係があるんですよ。計量法第一条で「計量の基準を定め、適正な計量の実施を確保し、もって経済の発展及び文化の向上に寄与することを目的とする」とあります。商取引においても、大半の商品がはかられています。食品・生活用品・自動車のスピードメーター・ガソリン等の取引単位が計量法に基づき表示され、規制されています。適正な計量のおかげで安心して生活できるのです。

なるほど!  
ところで、今回のテーマはお酒なんです、日本酒を飲む枡もはかりのひとつですよ?

※1京枡(きょうます) 日本の中世末期から昭和戦後期にかけて公定の枡として採用されていた枡の様式。

私共の会社は、確かな計量を通じて経済活動を支えていると自負し、日々頑張って営業しております。 **さすがです!** **高橋社長ありがとうございました。**

そうですね。私達が宴席等で嗜むお酒の量の単位も歴史の中で変化してきました。現在の1升は1斗の10分の1、1合の10倍で、18039リットルにあたります。現存している中国漢代の1升を求めると、いまの1合1勺で約10分の1に相当します。日本においては、大宝律令(701年)の1升は4合あるいは6合とされていますが、豊臣秀吉が定めた「京枡※1」は四方が5寸、深さが2寸5分とほぼ2倍になっています。

どうして体積の単位は  
どんどん増えていったの  
でしょう?

その理由は、枡が増税の道具として使われ増収を図るためと、3次元の量であるため視覚による判断が困難であると思われたからで



人の背丈程ある大きなはかり。これは、基準となる分銅と実際に使う分銅が均等かどうかを確かめるための。



(写真右) 社内にはレトロな雰囲気のはかりがいっぱい飾ってあります。

「はかり」の事なら  
何でもお任せください!



株式会社 高橋はかりや

住 所：加茂市矢立 5-4  
TEL：0256 (52) 2121  
FAX：0256 (52) 7880

